



「春愁」 水彩会員 佐藤恵利子

第〇〇回 道展 = 昭和〇〇年でしたよね！



事務局長 福原 幸喜

今年は昭和でいうと99年になります。コロナでの休回でずれてしまいましたが、それまで道展の回数=昭和〇〇年と覚えていたので、改めて聞くと感慨深いものがあります。

今年の第98回道展は会員・会友279点、公募214点、総数493点の作品を展示し、七千人を超える来場者をお迎えしました。特に、ベテラン勢の作品の大型化が目を引いた事に加え、10代から90代までの厚い出品者層、中でも30代以上の出品者が各世代で少しずつですが増加したことが特徴的でした。また、U21から成長してきている若手作家の充実ぶりには目を見張るものがある一方で、近年の社会情勢、人手不足、周囲の期待を受ける若者の大変さからか、出品が継続していかないものどかしさも感じました。

道展は『登竜門』と例えられることがあります。『登竜門』とは立身出世のための関門という意味です。確かにそのように捉えている方もいるのかもしれませんが、しかし、私たちが目指すのはどこかに行くための通過点ではありません。ここに集う場の創出、目的地としての展覧会です。

作品を持ち寄り、互いの研鑽を讃えるとともに、自身のさらなる創作への意欲を高める場。

ともすると孤独な時間になりかねない創作活動ですが、様々な分野で同じ思いを持って励む人の存在を感じ、交流することの意味。それが偶発ではなく、年に一度定期的にあることの安心。そして、たくさんの観覧者にはそうやって創り出された様々な分野の作品の競演を目撃できる幸福をお届けできればと思います。

インターネットなどで手軽に全世界に情報を発信できる

現在、公募展は不要ではないかという人もいます。しかしながら、作家同士あるいは作家と観覧者の気持ちを一つにする、実体として顔の見える人と人とを「connector~繋ぐ」(仏語です)ことを大切にしたいと考えると公募展という場は一つの答ではないでしょうか。

来たる100周年に向けて準備を進める中でも、いかに魅力あふれるものにするか、様々な思いがぶつかり、時に激論をたたかわせることもあります。私たち会員が事あるごとに口にする『道展愛』の現れにほかならず、むしろありがたいものです。

今年の本展期間中、主催者控室に道展HPにマンガが掲載されている「道展くん」のグッズが並んでいました。道展への愛着を少しでも広めたいと思う会員のアイデアに基づく試作品でしたが、これ



がなかなか可愛い。まだまだ試作の段階で他にも展開を模索しているようですし、実現できるかも未確定ですが、このスポンサーを持たず、会員・会友の手作りで運営している『道展』を自分たち自身で楽しみながら創り上げている姿こそ、次の100年に向かって道展が続いていくヒントのような気がします。まずは100周年へ。さあ、みんなで進みましょう。

聞くところによると、全体の傾向として作品の雰囲気は明るくなったという。また絵画については130号くらいのやや大きいものが増えたい。アフターコロナを示す現象のひとつと言えようか。



そう言われてみれば、心の奥へと迫るような内向的な作品を昔はもっと目にしたような気がする。印象物を語ってしまうのはよくないが、まさかこのような執筆の機会を得るとは思いもせず、およそ四半世紀にわたって一鑑賞者として観て楽しませて頂いただけの身なのでどうかご容赦頂きたい。

ともあれ、これをきっかけにギャラリーツアーや講評会にも初めて参加してみた。なかでも講評会は作り手が同じ作り手に対して評したり、相互に意見を交わすというのが会場のあちらこちらで行われ、その様子がとても新鮮だったし、発見も多かった。とはいえ、技術や技法の指導的側面はそちらに譲るとして本稿では鑑賞者目線で思ったところをしたためさせて頂く。なお、取りあげる作家の順は不同で、作品名を省き作家名だけ、且つ敬称略で表記させて頂く。

まず【日本画】朝地信介^{みどり}：翠を基調とした透明感に見とれていると、不意に画面全体を覆う亀裂から覗く黒に吸い寄せられそうな感覚に襲われ、胸がざわつく。日本画特有の鉱物や動植物由来の画材の可能性を探究し、その限界や長所を画面に留めることにも注力しているように見受けられる。上野秀実：曲線、曲面のうねりをもって造形された白基調の立体物にほのかに色づける美術家、と思っていたが、今回はこれまでは見られなかったエッジの効いた直線基軸の作品。「森へ還る」という題名と相まって示唆的である。馬場静子：前回出品の赤い椿もそうであったように、一種類の花を画面中央に高密度に集合させ、花の強さを描き出すというその豪胆ぶりが魅力的。平向功一：画面の大部分を占める集合体とそこから垂れ下がるたくさんの錠前たちとの関係が、まるで浮遊する要塞とその従属物のよう。立体と平面とが巧みに融解し、物語が生



まれるまでに至っている。さとう綾子：群れる蝶を丹念に描き込みながら日本画の魅力のひとつである装飾性もきちんと乗せ、端麗で心地よい。

次に【油彩】野澤桐子：人物はもちろん布地や皮革、光沢ある床板などそれぞれの質感をリアルに描き出してきた画家がまるで別のスタイルに振り切って見せた。背景に組み合わされた矩形の色面、頭髪や衣服に差された地色以外の色の重ねがまた妙味である。船岳紘行：毒気と寓意に満ちた世界が独得な描画法ともあいまって画面から醸し出されている。物語を読み解こうと画に食い入る内に、目線が滞りなく滑らかに行き渡ることによって衝撃を覚える。構図の密度配分が的確なのだろう。村上陽一：古典画風を滲えつつも、描かれている全ての要素が実は独創的でこれらが巧妙に配置されている。安心して画に寄り添って楽しめる作品。星奈桜：たくさんの人々が描かれていてなかなか騒々し

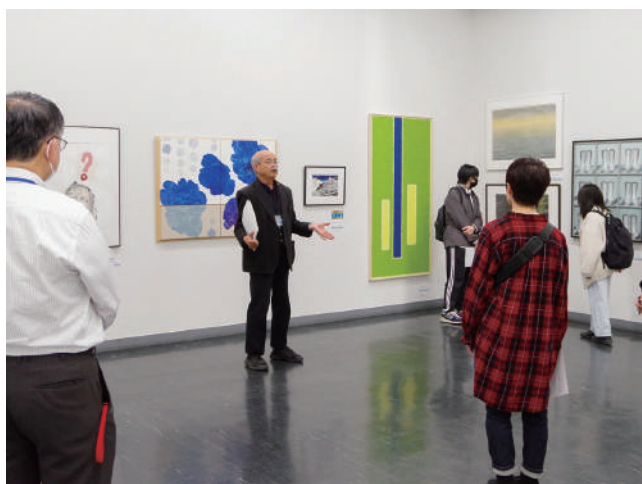


い絵である。太い輪郭線と色面とが時にくっついて溶け合っただけでもまたうるさい要素となるはずなのに、構図が整理され、流れるような画面構成のためか、心地よく眺められる不思議な絵だ。千代明：ホログラムのような特殊視覚効果を生むように加工されたアルミ板と板金塗装を駆使した色面との構成が実に気持ちよい。この技術は容易く修得出来るものではなからうが、この画面構成力もまた独創性に満ちている。

【水彩】若杉博丈：少し曲がった木と木の影で画面右下から弧線が伸びて囲むような構図が秀逸。確かな画技を感じる。盛岩唯史：風雨にさらされ、朽ちゆくバスもの悲しい様子を点描で描き切る。錆と寂びと点描の相性の良さに驚かされた。



【版画】西村明美：明快な色遣いで花を大きく浮かばせるのが印象的。今回は花の隙間を埋めるように小円が配され、その中には図形や物質が描き込まれるという新しい展開を見せた。兼平浩一郎：これまでは緩やかに移る色のグラデーション領域を探るような作品であったが、前回出品から水平線を意識した出品となっ



た。横に一線引かれたことによりその境界にまとわりつく濃淡明暗が放つ存在感が一際強く感じられるようになった。

そして【彫刻】伊藤幸子：佇まいも表情も好い女性像。腕の削ぎ所や頭髮の撫でつけ具合も絶妙。像全体の配色も申し分ない。菱野史彦：仮構の世界に現れそのような造形。本作のように回転軸が方々にあって可動したり、不動ながらも波状のリズムを視覚的に伝える作品もある。線のみならず面の要素も採り入れながら放縦に拡がり空間を占める近年の作品も圧巻。花輪大輔：隙のない形を作り上げるだけでなく、表情の作りもよいと改めて認識した。そして過去出品も含め、総じて重みのバランス取りが巧み。

最後に【工芸】俣野誠士朗：ワイヤーを巧みに束ね、編み、ヤモリを再現して見せる。下から見上げてみてもそれはヤモリであった。が、真上から見ると背中や指に嵌められた輝石がとても効果的に配され、装飾品としてもきちんと成立していた。小山七郎：まず目に付くのは雪の結晶、よく見ると菱形も見つけられる。そんな複雑な文様を透かして造形する技術の高さと繊細さはもちろん目を見張るが、縁まわりを部分的に欠損させ、不完全の用と美を一気に提示する潔さも感じる。本田詩織：大小様々な雪の結晶柄が浮かび上がるように明るい色調で染められた生地が幾層か重ねられていて可愛い。美を堪能するという点では今回のように生地を基底材に貼り付け固定させた展示方法は功を奏していた。

他にもそれぞれにある魅力を確認に感じ取っていたりするのだが、この度はこの20人について触れるに留まる。次回、そして100回に向けて、さらなる意欲作の発表があることを期待する。





佳作賞 イトウマミ
まるほ



佳作賞 加藤 愛子
流転



新人賞 俵谷 舞
夢幻泡影



新人賞 久松 祐子
強く、生きる。



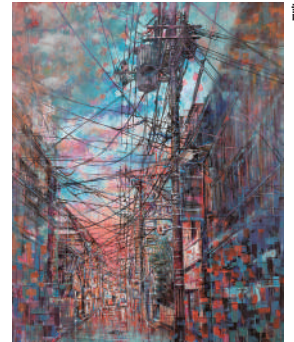
協会賞・新会友
レクイエム
橋詰 博



佳作賞
躍動
城内つぶら



佳作賞 大作 絢花
染



記
佳作賞
本多 玲亜

受賞者の ことば

●**佳作賞** 日本画 イトウマミ
此の度は佳作賞を頂けてとても嬉しく感じております。地元の日本画教室へ通い、多くの影響を受けながら毎日楽しく制作しています。欠点の多い作品ばかり描く日々が続いていますが、受賞をきっかけに今まで以上の研鑽を重ねてまいります。

●**佳作賞** 日本画 加藤 愛子
この度は佳作賞をいただき誠にありがとうございました。仕事と制作の両立は難しく出品に間が空いてしまいましたが、道展をきっかけに大きな作品に着手できたことに喜びを感じます。この受賞を糧に、今後も楽しんで制作していきたいと思ひます。

●**新人賞** 日本画 俵谷 舞
触れたら崩れてしまうような水面と少女の儂げな雰囲気を実現的なシーンに表現しました。描き込みなどまだ至らない部分もありますが描きたいものを描け、今回の受賞はとても励みになりました。今後も精進していきたいです。

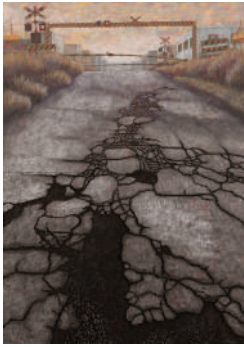
●**新人賞** 日本画 久松 祐子
1年半前より日本画を学び始め、初出品で賞を頂けたことを深く感謝致します。昨年海外生活となり、スウェーデンで見た吹雪の中のヘラジカをモチーフに、どんな境遇でも強く生きることをテーマに自分を鼓舞する気持ちを表現しました。見て頂いた方にも勇気を少しでも感じて貰えたらと思ひます。

●**協会賞・新会友** 油彩 橋詰 博
受賞の報にかなり驚きました。今後も受賞の名に恥じぬよう制作していけたらと思ひます。実在感のある作品をテーマに、願わくは音楽が聞こえて来そうな作品が出来たら…と密かに夢見てます。色使いや筆使い等まだまだです。面倒くさらず研鑽しなければ！

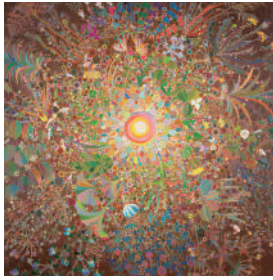
●**佳作賞** 油彩 城内つぶら
昨年に引き続きこのような名誉ある賞を頂き心より感謝申し上げます。制作では悩み、途中で投げ出したくなる瞬間もありましたが、それでも向き合い続けて描いた作品が、少しでも多くの方の心に残るものとなったことを大変嬉しく思ひます。

●**佳作賞** 油彩 大作 絢花
この度は、佳作賞を受賞させていただき誠にありがとうございます。私は、自身の生き方と向き合いながら作品制作を行っています。今作は、葛藤や迷いがありながらも、美しく強かに生きたいという思いを込めて自画像を描きました。これから精進して参ります。

●**佳作賞** 油彩 本多 玲亜
去年に続き今回も賞を頂き、誠に光栄に思ひます。今作は「場所が持つ記憶」をテーマに描いています。様々な出来事が積み重なってその環境ができあがっていく様子を、多様な色彩で何度も塗り重ねて表現しました。今回の受賞を励みに、今後も自分なりに美しいと感じる風景を沢山描いていきたいと思ひます。



佳作賞 増子 芳朗
遮断



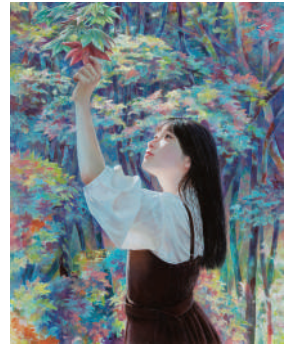
佳作賞 山本 美和
雑草
～ケセラセラを超えていけ～



佳作賞 川村 富雄
ハシビロコウの風景



佳作賞 中本 準一
紅蓮



新人賞 竹内 優希
彩光



佳作賞 丸山 裕也
夢走る進化鈍足



新人賞 上野 琴音
濁色に光



新人賞 オブジェ
沼田 宏典



部門優秀賞 若杉 博丈
港へつづく道

●佳作賞 油彩 増子 芳朗
受賞ありがとうございます。道路のヒビは、車がたくさん行き交う所の方がひどくなるようです。なにもなかったように綺麗にされるもの、上からふさがれるだけ、放置されたまま、直し方にもいろいろな事情が見られます。すべての道が平坦でありますように。

●佳作賞 油彩 丸山 裕也
この度は賞を頂きありがとうございます。今回は、地球の誕生から未来までの空間を、歴史の浅い人間が万物の霊長を気取って走っているが、その足は非常に遅いという絵です。人間の滑稽さ、自惚れを描きました。これからも表現を追求していきます。

●佳作賞 油彩 山本 美和
持病が悪化したベッドの上、幼少期夢中でしたお絵描きを再開。思い浮かぶモノを日々描いた。創作中声がする…笑われてもいいじゃん、描きたいモノを描きたいように好きに描いてみなよ、サラケ出してみなよ…心に従うのは怖いけど楽しむ勇気を持ち続けたい。

●佳作賞 油彩 中本 準一
受賞の連絡をいただいた時は、嬉しくて泣きそうになりました。今回初めて自分の作品が高い評価をいただきましたが、もっと上の賞も取れるよう精進したいと思います。ありがとうございました。

●新人賞 油彩 上野 琴音
この度は新人賞をいただきありがとうございます。私は大学生になったばかりですが多くの人たちとの出会いがあり、その方たちとお話しする事や先生方のご指導が自身の成長に繋がっています。今回いただいた新人賞を励みにこれからも制作に向き合っていきます。

●新人賞 油彩 竹内 優希
U21に引き続き、賞を取ることができてとても嬉しく思います。今回の作品では光の温かさを伝えることを目的としていて、見ていただいた方からそれが伝わると言われることが多く、高校の時に比べ、表現力が上がったんだと実感することが出来ました。

●新人賞 油彩 沼田 宏典
この度は新人賞を頂きありがとうございます。退職を機に以前からやりたいと思っていた油彩画を始めたのですが、今は絵を描ける環境で良い時間を過ごせていることに充実感を感じています。今回の授与を励みに、さらに良い絵を描けるように精進したいと思います。

●部門優秀賞 水彩 若杉 博丈
数年前に水彩を始めてから、道展は大きな目標でしたので、初入選は大変嬉しく、受賞は望外の喜びです。港に向かって真直ぐ伸びる雪の坂道、それに直交する多くの屋根の重なり、美しい小樽の朝景を縦構図で描きました。作品が観るひとの心に響くように、今後も精進いたします。

●佳作賞 水彩 岡田 知之
受賞ありがとうございます。今回は、柔らかい形と鮮やかな色合いを土台に、不思議だけど、なぜかノスタルジーを感じさせる世界を描いてみました。登場人物は、自身の経験をもとに、それぞれの関係性を大切にしています。これからも自分の世界観を大切に描いていきます。



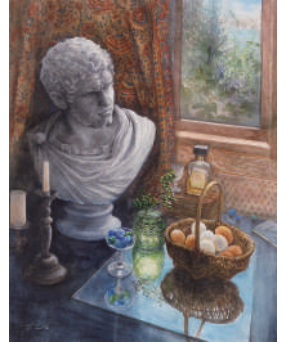
佳作賞 岡田 知之
夏色の思い出



佳作賞 関 興一
黄葉の湿生園



佳作賞 益満 伸子
湿原の秋



佳作賞 太田 行子
リフレクト



新人賞 西内 タ子
枯れてもなおⅢ



佳作賞 遠藤 真南
相互監視



新人賞 高橋 俊之
冬のカミホロカメトック山

●**佳作賞** 水彩 関 興一
水彩画を始めて10数年。日本水彩画会北海道支部に入れていただき、諸先輩方に多くのご教示をいただきました。憧れの道展には今回で早5回目。この度の佳作賞を大変嬉しく思っています。これからも職場だった北大構内の原始の森をテーマに描いていこうと思います。

●**佳作賞** 水彩 益満 伸子
今年はどこかの山を描こうかなあと考えた時、道展初入選となった「沼ノ原めぐり」を9年経った今、もう一度同じ季節で同じ場所を描く事に決めました。描いている途中で変えたくなくて多少の構成をして「湿原の秋」となりました。登山をするのは難しくなりましたが、沢山の山を登って来て感動で胸が張り裂けそうになった思いを描いて行けたら幸いです。

●**佳作賞** 水彩 太田 行子
先輩から譲り受けた石膏像をなにげなくモチーフに入れてしまった。あとで、とんでもなく、大胆な事をしたと何度も反省した。受賞の連絡をいただいた時、喜びとともに、この次はさらに精進しな

くてはと、自分を振り返る機会を与えられたと感謝しています。

●**新人賞** 水彩 西内 タ子
3回連続落選しこのたび初入選、新人賞をいただき感謝いたします。私は千歳の公民館教室で5年間津津昇先生に水彩画を習い「見えないものを描く」という事を学びました。今回の作品は枯れたあじさいを高齢の母と重ね題名を「枯れてもなお」としました。

●**佳作賞** 版画 遠藤 真南
この度は佳作賞に選ばれて大変嬉しく思います。自画像版画を制作しています。自分の顔は加工しても切り刻んでも罪悪感がないので好きです。これからも自分の顔と向き合いながらより良い作品を制作していきたいです。

●**新人賞** 版画 高橋 俊之
木版画教室に通い始めて7年、先生の勧めもあり一般応募したところ、年齢80にして新人賞を頂くことができ、大変うれしく思っております。木版画は奥が深く技法も様々です。表現の方法をいろいろ試しながらの制作は楽しいものです。今後も精

進したいと思います。

●**新人賞** 版画 三澤 柊哉
この度は第98回道展の版画部門で新人賞を頂戴し誠に光栄に思います。タイトルは「億年争闘」で時を越えて尚、闘い争っているというイメージで制作しました。

●**部門優秀賞** 彫刻 山内 祈信
この度は、大変素晴らしい賞をいただきありがとうございます。風景をテーマに金沢、取手、杭州、岩見沢と渡り歩き、20年くらい彫刻を制作してきました。今後も日々の生活を進めながら、ほんの些細なものとの変化を観察し、作品化できたらと思います。

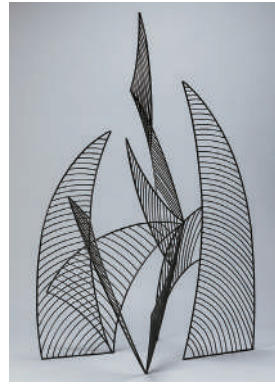
●**新人賞** 彫刻 小林 隆人
2020年、感染症の拡大により、人との接し方に様々な変化が起こりました。今回の作品はその時期の経験を元に作りました。今は多くの人と繋がれています。これからも人との繋がりと美術を楽しむ事を大切に制作を頑張りたいです。



新人賞 億年争闘
三澤 柊哉



部門優秀賞
風景になる人
山内 折信



新人賞
Distance
小林 隆人



佳作賞
雪華(せっか)
本田 詩織



新人賞
森さん
鈴木 八沖



佳作賞
焼き締め自然釉
石川 雅昭
流文鎬扁壺



新人賞
藤壺
小甲楠緒子



新人賞
俣野誠士朗
Gekko / シロヤモリ

●**新人賞** 彫刻 鈴木 八沖
1997年の夏にこの「森さん」を作りました。その後、身体を壊して生活が立ち行かなくなり、志した彫刻を諦めました。それでもこの首の石膏型とヘラは捨てませんでした。あれから27年。止まっていた時がまた動き始め、人生の不思議を感じています。

●**佳作賞** 工芸 石川 雅昭
穴窯で「自然釉」の作品を中心に制作しています。この窯は薪を大量に使い、7日間程火を絶やす事なく燃やし続けます。一人では焚けず、薪窯仲間や友人に手伝いをお願いするも「焚き手」が少ないのが悩みで

す。緑のビードロと緋色の同時焼成が当面の目標です

●**佳作賞** 工芸 本田 詩織
オパール加工(透かし模様の技法)を用い、「晴れた日の光に輝く雪」を表現しました。制作工程に色糊や絞り染めを加えた布を2枚重ねることにより、色の深みや柄の立体感を出す工夫をしました。受賞を励みに、今後も新たな表現方法を模索したいと思います。

●**新人賞** 工芸 小甲楠緒子
高齢になった方に、パートナーとなる大切な杖を入れて頂きたくこの壺を作りました。そして、モチーフ

となった樹齢二百年を誇る天神藤(札幌平岸)も、その大樹を支えるため幾本もの杖をつけています。窯の力と釉の流れのコントロールが難しかったです。

●**新人賞** 工芸 俣野誠士朗
新人賞をいただけて、とても嬉しく思っています。
自分の表現が評価して頂けたことは、本当に光栄で自信にも繋がりましたし、とても良い経験になりました。

それらを活かして、今後の創作活動に励んでいきたいと思っています。
この度はありがとうございます。



【2025 第15回 道展U21について】



2025 第15回 道展U21
 展覧会 2025.1.31fri—2.2sun
開館時間 10:00~17:30(最終日 16:00まで)
 授賞式・講評会 2025.2.2sun
 札幌市民ギャラリー **入場無料**
札幌市中央区南一条西1丁目16-10(15F)

公募 搬入日 2025.1.28tue
 応募はWEBで—<https://doten.jp>


- 搬入日 2025年1月28日(火)
- 会期 2025年1月31日(金)
~2月2日(日)
- 会場 札幌市民ギャラリー

『第98回道展移動展のご案内』

- 第68回釧路移動展
2024年11月26日(火)~12月1日(日)
釧路市立美術館(開催は終了しました。)
- 第76回帯広移動展
2025年1月16日(木)~21日(火)
帯広市民ギャラリー

【第99回道展の搬入日と会期について】

- 会員・会友搬入日 2025年9月27日(土)
- 公募搬入日 2025年10月9日(木)
- 会期 2025年10月15日(水)~11月2日(日)
- 会場 札幌市民ギャラリー

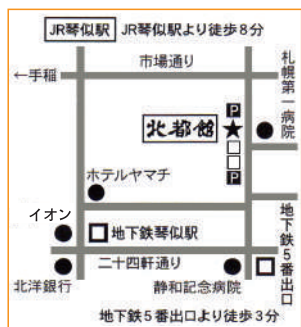
絵好きの集う店

カフェ **北都館** ギャラリー

札幌市西区琴似1条3丁目1-14 第一病院向い
TEL 011-643-5051

営業時間 水~日 AM 10:00~PM 7:00
火曜定休日 月 AM 10:00~PM 5:00

メールアドレス hokutokan@sa3.gyao.ne.jp
<http://hokutokan.jimdo.com>



金メダルラッシュに沸いたオリンピックイヤー。金色・銀色といったメタリックカラーは、金属の鏡面反射による光沢が加わって見えているので「色」と呼ぶには語弊がある。銀は人の目に見える光のほとんどを反射するため色味のない白や灰色に光り、金は可視光の紫~青の光は吸収し、黄~赤の光を反射するため赤味の黄色に光って見える。

C18% M28% Y94% K1%

雄弁は銀、沈黙は金

<https://nakanishi-shuppan.co.jp>



NAKANISHI PUBLISHING CO.,LTD.

since 1988

道展ニュース

No. 154 [2024年12月14日発行]

発行 ■ 北海道美術協会
編集 ■ 道展広報部
URL ■ <https://doten.jp>
デザイン ■ 笠井真紀子(中西印刷株式会社)
印刷 ■ 中西印刷株式会社

編集
後記

今年はオリンピック・パラリンピックの年でしたが、世界では戦争が続いており、多くの命が今も失われています。平和な日本で、第98回道展を開催することが出来ました。

若い力の台頭とともに、今年の協会賞はベテランの力が発揮された年でした。道展の歴

史100年まであと2年、次に繋がる若者とともに道展が益々発展していくことを願います。

(R. Y.)